

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果(広報用)

プログラム名	マレーシアアトラ大学のELS語学センターでの英語集中プログラム参加を通じたグローバルマインドをもつ人材の育成プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構	
プログラム実施期間	2018年8月5日～8月26日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア・マレーシアアトラ大学 ELS語学センター	
	参加者数 : 11名	知の森からの支援者 : 10名
プログラム概要	本プログラムでは、本学の協定校であるマレーシアアトラ大学に併設されているELS語学センターが主催する約3週間の英語プログラムに本学の学生を参加させ、英語の四技能を集中的に訓練させた。さらには、語学研修中に、授業外で現地の文化に直接触れるイベントに参加させ、異文化間交流を通してグローバルマインドを養成した。これにより、学生が長期海外留学へ向けたモチベーションを向上させる上で鍵となる、長期留学のベースとなる英語力およびグローバルマインドを養成した。現地では、男子6名と女子5名それぞれがアパートの1ユニットを借りて共同生活を行った。これにより、集団生活で必要となる協調性を養成することもできた。	

実施状況・成果

平成30年8月5日(日)に成田空港に11名の学生と引率教員1名が集合した。学生たちは期待に胸を膨らませ、クアラルンプール行き(マレーシア航空)の航空機に搭乗し、予定通り当日中に現地入りした。今年はいミグレーションが予想に反してすいていたため、スムーズに入国ができた。入国後は携帯電話にSIMカードをセッティングするのに時間がかかってしまったが、語学学校のスタッフがUPMのバスで迎えに来て、宿泊先へのチェックインをサポートしてくれたため、学生たちはスムーズに研修をスタートすることができた。到着の翌日、語学センターでプレイメントテストを受験した後、レベル別のクラスに分かれて、各自、英語の四技能の訓練に入っていた。授業は英語で実施され、授業中に英語で発言することを求められることが多かったせいか、学生たちも徐々に英語を使って意志を伝えることの重要性を学んでいた。また、クラスメイトに日本人以外の人が多かったことも、異文化間コミュニケーションのツールとして英語を用いることの重要性を身をもって理解することに貢献したようだ。授業のない週末には、マレーシアの文化に触れるため、世界遺産であるマラッカや政府の機能が存在するプトラジャヤなどを訪問し、見聞を広めた。学生たちにとっては特にイスラム文化に触れたことが新鮮な体験になったようだ。

今回の研修は、英語の学習自体は3週間ほどと短期間であったため、英語力の大幅な向上の実現は難しかったが、前述のように、異文化間コミュニケーションのツールとして英語を学習することの重要性について、学生各自が気づくことができたというのが最大の成果であると思われる。これにより、学生が長期海外留学へ向けたモチベーションを向上させる上で鍵となる、長期留学のベースとなる基礎的な英語力およびグローバルマインドの養成がある程度実現したことになる。実際、今回の研修がきっかけになり、さらに長期的な留学を考えたいという学生の声が多く聞かれていることから、このことが裏付けられる。本当に実りある成果があったかどうかについては、今後の参加学生の動向を見極める必要があり、現時点で判断するのは時期尚早であるが、少なくとも、学生が今後さらなる留学などにつなげてくれるという手ごたえを得られたのは間違いない。

学生の声-繊維学部 学生

語学学校でレベル107を修了できたため、UPMの学部で必要とされる英語力の要件を満たすことができた。今後は大学の学部で留学し、自分の専門の勉強を海外でやるためにも、長期の留学を考えたい。

ELSでの集合写真



修了式

